



とっとり TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鳥取国際通信 国際通信

Contents / 目录

「やさしい日本語版防災ハンドブック」を発行しました Release of Easy Japanese Disaster Preparation Handbook 財団发行了「浅显易懂的日语版防灾手册」	2 3
コミュニティ通訳ボランティアを派遣しています! Community Volunteer Interpreter Dispatch 社会生活翻译义工派遣制度	3
小学校へ出前しました!子どものための異文化理解体験講座 Intercultural Understanding Workshop for Kids Delivered Straight to the School 外送到小学!「专为小孩设计的异文化体验讲座」	4
鳥取県・バーモント州青少年交流事業 Tottori-Vermont Youth Exchange Project 鸟取县・巴门达州青少年交流事业	5
研修員、留学生の紹介 Introducing / Trainees & Exchange Students 研修员、留学生的介绍	6
JICAデスクより The JICA Desk JICA的办事处	6
海外レポート International Report 国外报告	7
第1期日本語クラス開講のお知らせ First-term Japanese Classes Opening 第1期的日语教室即将开课	7
英語版ダイジェスト/中国語版ダイジェスト Information in English / Information in Chinese 英文版文摘 / 中文版文摘	8 9
情報掲示板 Notice Board 信息布告栏	10

Valle d'Aosta/Repubblica Italiana



美しい世界の風景

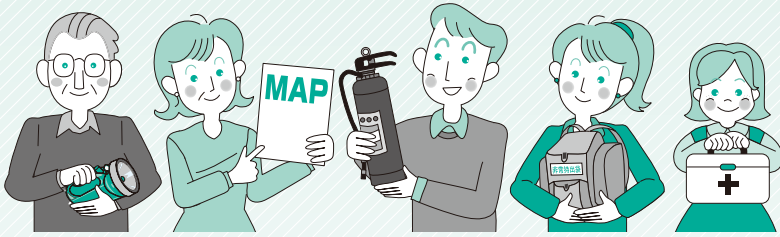
Beautiful World Scenery



イタリア共和国/アオスタ
アオスタ渓谷

ヴァル・ダオスタ州の州都アオスタの街を中心として広がるアオスタ渓谷。美しい自然が今も保たれているこの渓谷では、イタリア側からヨーロッパ・アルプスの二大名峰を望み、トリノ小屋よりモンブランの雄姿を、プラトー・ローザの展望台よりマッターホルンの雄姿が見られます。また、重厚な城や教会が多くみられ、歴史的にも遺産の多い場所です。先史以前には、ケルト系リグーリア族が支配し、山の奥にはケルト時代の巨石文明の遺物が残されています。

やさしい 外国人のための 「日本語版防災ハンドブック」



を発行しました

ご希望の方には無料で配布・郵送しますので、お気軽にお問い合わせください。

鳥

取県には平成24年12月末現在、約4,000人の外国出身者が居住しています。近年は、結婚や就職などを機に、日本に長期滞在する人も増え、近所に外国の人が住んでいたりと、学校で同じクラスに日本語がよく分からない外国籍の児童がいるなど、外国出身者が地域の住民として暮らしているということが、珍しくなくなりました。

このような状況で、日本人と外国出身者がお互いの文化を尊重し合いながら、共に地域で生きるための対応が課題となっています。その中でもとりわけ、災害発生時には災害弱者になりやすいため、支援に目を向けて欲しいという意見が、県内在住の外国出身者から出たこともあり、今年度より財団では、防災・災害時支援に取り組み始めました。

緊急地震速報

ひなんかんこく
!!! 避難勧告
（「危ないです。逃げてください。」というお願い）

すぐに 安全な ところへ 避難（逃げる）します。
または 近くの 避難所（災害のとき安全のためにみんなが集まる場所）へ行きます。

※▲「やさしい日本語版防災ハンドブック」8ページより

過

去に起きた阪神淡路大震災などの災害を振り返ると、災害時の情報伝達には限界があったことがうかがえます。災害発生時には、被災者の生死に大きく関わる災害情報が発信されますが、被災情報を一刻も早く知りたいという思いは、日本人も外国出身者も同じです。

ところが、災害時に伝えられる情報は、日常生活ではあまり聞き慣れない災害についての専門用語が多く含

まれ、外国出身者にとっては理解しがたいものです。とはいえ日本語に不慣れな外国出身者へ刻々と状況が変化する被災情報を迅速に、しかも多くの言語に翻訳し配信することは、簡単なことではありません。英語のみで被災情報を配信したとしても、被災地に在住する外国出身者の国籍は様々で、すべての方が英語での情報を理解した上で、被災状況に応じた行動をすることは限界があります。また、地震が発生しにくい国や、災害経験の少ない外国出身者は、災害時により大きな不安を感じるようになります。



そ

ここで、外国出身者に普段から災害に関する知識やいざという時の心構えを持ってもらい、災害時の被害が最小限となるよう、「やさしい（平易な）日本語による外国人向けの防災ハンドブック」を作成しました。災害の危険性を知ること、その危険から身を守るためには防災が必要であること、災害が起こった際の対処法などについて、一人でも多くの外国出身者に伝えることができるよう、県内に広く配布しています。

これまでに財団では、携帯電話向けに多言語メールマガジン配信サービスを立ち上げ、登録者へ定期的に「暮らしに役立つ情報」や「国際交流イベント情報」を配信する体制を整え、情報を配信してきましたが、今年度より日頃から防災・安全に対する意識の啓発となるような記事も、併せて配信しています。さらに、日頃から常時携帯できる、緊急車両を呼ぶ際にも便利な



「災害時携帯カード」も作成しました。このハンドブックや携帯型カードは、必要な部数をお知らせいただければ送付しますので、お気軽に財団各事務所までお問い合わせください。特にハンドブックは、やさしい（平易な）日本語で書いているため、外国出身者に加え、子どもからお年寄りにとっても読みやすいものとなっています。



※▲「やさしい日本語版防災ハンドブック」9ページより

地震を経験した外国出身者は…

- 初めて地震を体験したとき、「この揺れは何？」とびっくりした。
- 経験がないので、震度1や2のわずかな揺れでも、怖い。
- 津波が発生したとき、「高台」という言葉がわからずどう避難したらよいか分からなかった。
- お金がかかると思って、避難所へは行かなかった。
- 外国人だとわかると、避難所から追い出されるのではという不安があった。

次年度財団では、防災について考える良い機会となるよう、実際に地震の揺れを体感したり、非常食を食べるなどの体験学習を交えたセミナーを開催予定です。

続々派遣しています！「コミュニティ通訳ボランティア」

財団では、保育園や学校、行政機関等でのやり取りや手続きの際に言葉のサポートをする通訳ボランティアを派遣しています（ボランティア派遣にかかる交通費・謝金は当財団が負担します）。

今年9月からの運営開始と同時に、多くのご依頼を受け、保育園、パスポートセンター、在留資格相談、ハローワークなどに通訳ボランティアを派遣し、派遣先・利用者双方からご好評をいただいています。「こんな時に通訳がいたらいいのに…」ということがありましたら、ぜひご相談ください。

※派遣制度の詳細や派遣依頼書などはすべてHPからダウンロードできます。

www.torisakyu.or.jp

検索

利用者の声▼ 外国出身者より

このようなサービスがあり本当に助かりました。

スタッフ・通訳者のどちらもとても親切でプロフェッショナルでした。

通訳してもらって得た情報を今後も活用していきたいと思えます。

行政用語が多く専門的な内容でしたが、通訳者が事前に説明資料を翻訳して準備してくださったので、非常にスムーズな面談となりました。通訳なしの時と比べて、外国人の方がリラックスして、不明な点を積極的に質問してられました。

途中から通訳の存在を忘れるくらいスピーディに通訳してくださり、本当に助かりました。こちらが一方向的に話すのではなく、外国出身者の方から話しかけてくるなどアットホームな話し合いができました。



利用者の声▼ 行政機関より

通訳者が状況を的確に理解し、何を聞き取ればよいか把握してくださったので、円滑に面談が行えました。

行政側にそういう意識はなくても、行政との面談は特に日本語に自信がない方にとっては、非常に緊張を強いるものであり、そこに通訳者が同席すると、その緊張を緩和することにつながると実感しました。また、行政側にとっても説明内容を十分に理解いただけたという安心感があります。双方にとって大変メリットのある制度だと思えます。

小学校へ
出前しました!

平成24年度

子どものための異文化理解体験講座



～皆さん、南アフリカ、ベトナム、ブラジルって世界のどこにあるか知っていますか?～

「子どものための異文化理解体験講座」を、今年度も県内各地の小学校で出前講座として開催しました。

講座では、県内各地より応募いただいた小学校に県内在住の外国出身講師が出向き、写真や実物を見たり触れたりしてもらいながら、外国の生活や文化を紹介。また、その国の子どもの遊びや歌などを一緒に体験しながら、講師との交流も深めました。出かけた小学校の皆さんは、初めて見聞きするお話や体験に驚きながらも、笑顔で楽しんでくれました。

講座の様子の一部をご紹介します。



マーティン・パーナードさん(南アフリカ)
ブゼラを披露しました。

ラモン・ポール・ダコスタさん(ジャマイカ)
炒めて食べる「アキー」という果物、おいしいですよ。

ラホカ・チェミさん(台湾)
これは台湾原住民の民族衣装です。



グエン・ティ・トゥ・チャンさん(ベトナム)
ベトナム語でXinChao! (こんにちは)



デオゴ・ケンヂ・シサカさん(ブラジル)
日本とブラジルってこんなに遠いんです!



王珠錦さん(台湾)
中国ゴマを回しています…



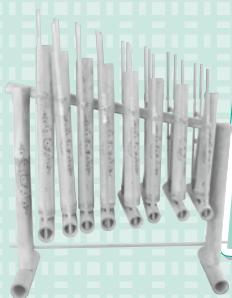
ペ・ジンさん(韓国)
ソゴ(太鼓)をたたいてみましょう!
伝統的な遊び「チェギ(羽けり)」や「コンギ(お手玉とおはじきを合わせた手遊び)」も紹介しました。



ビヤンバ・ジャルガルさん(モンゴル)
モンゴルの子は5,6歳から馬に乗るんですよ!
羊のくるぶしで作った「シャガイ」で遊んだり、「馬頭琴」を弾く体験もしました。

ニディヤ・サリさん(インドネシア)

みんなで「アングリン(竹製打楽器)」を鳴らしてみたり、「ケチャ」を合唱しました。



イリーナ・チェブラコワさん(ロシア)
マトリョーシカはこんなに小さくなります!

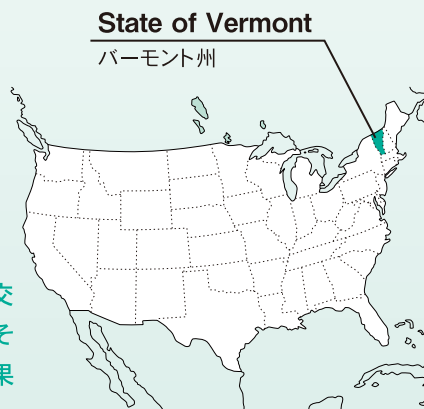
平成25年度も、各小学校の授業時間内にこの講座を出前します。公募により決定した小学校と財団とで事前に打合せをして、日程や講座の内容等を調整します。また、講座にかかる費用は当財団が負担します。是非、授業の一環としてご活用ください。

鳥取県・バーモント州

青少年交流事業

～県内の高校生等がバーモント州を訪問しました～

当財団ではアメリカ・バーモント州へ県内から選抜した高校生を派遣し、現地の高校生と交流する事業を毎年行っています。10日間程の滞在中に、現地高校生とパートナーを組み、その家でホームステイをしながら、環境に配慮した機関や団体を視察・訪問し、最後に研究成果を発表します。今年度は、食べ物と環境の関係をテーマに取り上げた研究をしました。



引率者 鳥取県教育委員会事務局高等学校課 指導主事 内仲 弘

鳥取県・バーモント州青少年交流事業において、2012年10月18日から29日まで、県内高校生等15人が米国バーモント州を訪問しました。元々英語に興味をもち、アメリカの文化に憧れを抱いている生徒たちも、実際に1週間、現地の家庭に滞在してみると、知識以上の文化の異質さに気づき、驚いたようです。

参加した生徒たちの感想を整理してみると、高校の授業スタイルや学校・家庭・地域におけるコミュニケーションの取り方についての違いが多く取り上げられていました。



写真 / 左・下
研究成果を発表



参加した生徒たちの感想

- ① ホームステイ先の高校生パートナーと一緒に現地の高校の授業に参加し、生徒の発言が活発な授業が多かったと感じた。アメリカの高校生は、疑問に思ったことや自分の意見を出し合い、議論していた。また、生徒の自主性や独創性が大切にされていた。
- ② ホームステイ先では、何かしたいのか、自分がどう考えているか尋ねられ、自分自身の意見を持つことや伝えることが大切であると感じた。また、家族同士の会話が大切にされていた。
- ③ 地域では、すれちがう人に声をかけ、会話をよくしていた。また、地元を誇りに思っていると感じた。

このように、生徒が、新たな視点で日本の文化との違いに目を向ける機会となりました。また、様々な体験を通して盛り上がった生徒同士の交流は、一時的なもので終わらず、参加した高校生の多くが、その後もインターネットによるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で連絡を取りながら、お互いの日常生活を知り、以前の交流に参加した生徒との交流も生まれるなど、疑似的ホームステイが続いているようです。

このように、自国の文化の価値を十分に認識する一方、日本とは異なる習慣や価値観を受入れ、異なる二つの価値観を融合させ、新しい世界を切り開く子どもたちが、この事業を通して、鳥取県に確実に年々増えていくことを期待しています。

平成25年度もバーモント州へ派遣する高校生を募集します。県教育委員会と県内各高等学校・高等専門学校を通して、募集・応募受付をし、募集開始時には財団のホームページ、メールマガジン等でもお知らせします。

また、この事業は相互交流として実施し、平成25年4月21日よりバーモント州から高校生が来県します。

▼ ミッドベリー大学農園で



▲ マウントエイブラム高校のハロウィンパーティー